

### 沖縄軽石群襲来に寄せて

今年8月小笠原諸島の海底火山「福德岡の場」の爆発で膨大な軽石が噴出、海流に乗って2ヶ月、1000km以上離れた沖縄北部の海域を襲い海洋生物、地元漁業に甚大な被害を与えている。日本は過去に似た経験をしている。それは24年前日本海で発生したロシアタンカー「ナホトカ」で、この時は高粘度の重油が打ち寄せ、多くのボランティアが活動する中で機械により短期間で大量の油を回収している。当時私は海上災害防止センターの現地責任者として、初期に成果を挙げるためにその機械の選択・運用に当たっていたが、中でも大量回収に成果を挙げた**ガット船**と**強力吸引車**は、今回の軽石群にも期待のできる機械と判断できる。そして、これらに精通した経験者の多くが未だ元気一杯である。現場で次世代の技術者に伝授しながら適所で大量の軽石群を退治して被害の拡大を防ぐ活動を今夢に描いている。間違っても人海作戦や経験を無視する事などがないことを願っている。

#### プロフィール

昭和44年海上保安大学校卒業、海上保安庁、海上災害防止センターで平成18年まで勤務、海上災害防止センターでは主にタンカー等による海洋汚染対策に取り組んでいた。その後は漁場油濁基金（現在の海と渚環境美化・油濁対策機構）と川のNPO専門家として活動している。著書として「海に油が流れると」「川に油が流れると」等がある。

